杉戸町立西小学校　令和7年度　学校評価（学校自己評価・学校関係者評価）

評価項目	目標	具体的取組	指標 （指標ごとの評価）		自己評価 評価	自己評価 達成状況（成果・課題）	改善策	学校関係者評価 評価	学校関係者評価 意見・要望・支援策等
確かな学力	知識･技能の確実な定着と思考力・判断力・表現力の育成	・杉戸町学力向上プロジェクト（共通実践5つの柱、授業スタンダード）に基づき日々の授業を充実させる。 ・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を実現する授業を展開する。	・「総合学力調査」において全学年で全国平均を超える。 ・授業公開シートを活用した教員の相互授業参観（全職員２回ずつ）	B	B	・「総合学力調査」において、６学年２教科中、３３％は全国平均を超えることができた。 ・授業公開シートを活用し、全教員が授業公開（年２回）を実施した。また、各公開授業後の研修会を行い、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を実現に向けた研究を深められた。 ・校内研修成果指標「意見や発表を聞いて判断する」、「既習事項を新規学習事項に生かす」、「失敗を恐れず挑戦する」全てにおいて、伸びが見られた。 ・年２回の授業研究会の際、関係幼保小中に授業を公開することができた。	・「総合学力調査」においては、全国平均に届かない学年・教科が多くあった。個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を実現するための授業を目指し研究を進めてきたが、「毎時間の指導事項をしっかり押さえること」、「児童がじっくりと思考するための授業展開」、「既習事項とのつながりや学習の見通しを教員と児童が共有すること」等に課題があると考えられる。このことを全職員で共通理解し、更なる授業改善に努めていく。 ・知識の基礎基本を押さえることだけでなく、文脈や事象の全体像を理解し、イメージすることのできる力を身に付けさせる。	B	・どこの学級もしっとりとして、落ち着いた雰囲気で授業を行っておりよい。 ・様々な工夫のある授業がある。楽しみながら、学べるように授業の展開がきめ細かに工夫されている。 ・授業の中ではグループワークが多く、よい雰囲気であった。しかし、挙手して発表するような形態が少なく、「自分の声で発表する」授業があってもよいのではとも感じる。
	すすんで学びすすんで実行できる児童（ＳＲＰＤＣＡサイクルを回せる児童）の育成	・校内研修を核としながら、児童のメタ認知の力を育て、自立して学ぶ力を育成するための授業改善を行う。 ・幼保小中で連携した学びの在り方について研究・提案する。	・校内研修成果指標「意見や発表を聞いて判断する」、「既習事項を新規学習事項に生かす」、「失敗を恐れず挑戦する」において、「できる」と答える児童の割合に伸びが見られる。 ・授業研究会の際、関係幼保小中に授業を公開する。（年２回）	A					
豊かな心	豊かな心を育み人権を尊重した教育の推進	・自己肯定感を醸成するため、自他尊重を基盤とした学級経営を行う。 ・多様な人材との交流や体験活動を通じて視野を広げ、感受性や協調性の伸長を図る。 ・道徳教育を基盤とし、人権感覚を育成するためのカリキュラムマネジメントを行う。 ・学校の全教育活動をとおして児童の学びを支援し、不登校の未然防止を図る。	・縦割り活動の実施（年６回） ・道徳公開授業の実施（年１回） ・人権集会の実施（年１回） ・体験活動及びゲストティーチャーを招聘した授業の実施（各学年１回以上）	A	A	・縦割り活動を年６回実施した。 ・各教員が、道徳公開授業を年１回以上実施した。 ・１２月に人権集会の実施した。 ・体験活動及びゲストティーチャーを招聘した授業を各学年１回以上の実施した。	・豊かな心の具体的取組とその成果指標においては、目標を達成することができた。しかし、学校評価において、「丁寧な言葉遣い」の項目で家庭・児童共にやや低い傾向が見られた。相手を敬い大切にする（Esteem）の姿勢が表れる言葉遣いについて、より一層学校全体で意識して育むことが重要であると考える。	A	・自分で声をあげるだけでなく、他の児童が他の児童を心配して言ってくる現状があるのはとてもよい。周りの友達を気遣うそのような感受性の豊かさがすばらしい。 ・道徳で生命尊重の学習をしていた学級があった。ドアに入る前から、子供たちが屈託なく真剣に楽しく考えている様子や発言が見られた。非常によい雰囲気。道徳性が養われていっていることを感じる。 ・子供たちが進んで挨拶をしにきてくれ嬉しい。大切な心が育っていると感じる。
健やかな体	家庭と連携した健康で安全な生活習慣の確立	・発達段階に応じた健康教育を実施する。 ・家庭や関係機関と連携し、計画的な保健行事を実施する。	・養護教諭やゲストティーチャーによる健康教育の実施。（各学年１回以上） ・むし歯治癒率１００％ ・学校保健委員会の実施（年２回）	B	B	・歯科衛生士を招いた歯科保健指導、栄養教諭を招いた食事及び栄養に関する学習を低学年と高学年において実施した。また、全学級において養護教諭による歯ブラシチェックを実施した。 ・永久歯を含めたむし歯治癒率は４５．１％であり、課題である。 ・学校保健委員会を６月と２月に実施した。 ・体育主任が中心となり、新体力テストの結果の分析結果を生かした体育授業改善を実施し、後期の新体力テスト結果では多くの項目において伸びが見られた。新体力テスト結果において男女ともに全体のＡ＋Ｂの合計が５０％を超えた。また、「体育授業でできた・わかった」の割合は９５％、「仲間との協力できた」の割合は、９３％となった。	・健やかな体の具体的取組とその成果指標においては、目標をほぼ達成することができた。しかし、むし歯の処置率が低く、家庭との一掃の連携と啓発が必要である。 ・健康増進・体力の向上については、保護者・地域の関心が高いため、今後も家庭と連携しながら本校の実態に即した実践を行っていく。	B	・少年スポーツの衰退化もあり、子供たちの体力向上は課題である。機会があればどんなスポーツでもよいので、子供たちにスポーツに親しんでいってほしいと思う。 ・持久走や、運動会での競技など、どんなものを学校で取り扱うか難しい。学校だけでなく、家庭でも子供たちに運動を促していくことが必要である。 ・スポーツをする子供の人口が減っている。また、二極化している。スポーツをする子供はエリート化し、やらない子はゼロになってしまうという現状がある。学校や家庭では、遊びの中から普通に運動に触れられるようにして欲しい。
	児童の運動量の確保と体力向上の推進	・新体力テストの結果から課題を明確にし、全校で課題解決への取組を行う。 ・体育の授業での運動量（活動時間）を十分に確保し、運動好きな児童を育成する。 ・長縄跳びに年間通して取り組むことで体力の向上を図る。	・新体力テスト　A+Bの合計５０%以上 ・授業１単位時間における活動時間３０分以上の確保 ・「体育の授業が好き」「体育の授業は楽しい」の割合９０％以上	A					
学校独自	学校課題研修の生活科、総合的な学習の時間をとおし、自立した学習者を育成する。	・様々な教科における多様な体験活動やゲストティーチャーの招聘を意図的・計画的に実施する。 ・これらの実体験に基づいた学びをとおし、自分自身ができそうなことや未来に向かって考えられることについて試行錯誤させる時間を単元の中に組み込む。 ・生活科と総合的な時間を実践的なアウトプットの場と位置付け、指導に当たる。	・校内研修成果指標において、全ての項目で「できる」と答える児童の割合に伸びが見られる。 ・体験活動及びゲストティーチャーを招聘した授業の実施（各学年１回以上）	B	B	・校内研修成果指標において、１０項目中８項目において伸びが見られた。 ・体験活動及びゲストティーチャーを招聘した授業を全学年において実施した。	・校内研修成果指標「自分の知りたいことを調べる方法を見つけることができる」「自分にはよいところがある」の項目について、年度当初に比べ微減した。授業の中で「既習事項と本時の学習の関わり」を捉えさせ、今までに使った調べ方（考え方）に意図的に気付かせる授業展開が必要である。また、児童の「できた！」「わかった！」を多く作り出し、自己肯定感・自己有用感を高めていく授業づくりを一層目指していく。	B	・一年生との昔の遊びを行い、どの子も楽しく取り組んでいた。お礼の手紙をいただいた。 ・様々な統計資料を用い自分の考えをまとめる学習があった。児童にとって身近なこと、時宜にかなった話題についての統計資料を扱うことも面白いので、子供たちに紹介してみるとよいと思う。 ・子供の成長は早い。小さかった子がいつの間にか難しいことを学習できるようになっている。 ・地域・家庭が一丸となり、たくさんの目で子供たちを見守っていくことが必要であると思う。